

# 生後2か月になったら

## ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンを受けましょう！

ヒブ(インフルエンザ菌b型)、肺炎球菌は、多くの子どもの鼻やのどにいる身近な菌ですが、体力や抵抗力が落ちた時などに、細菌性髄膜炎や敗血症、肺炎、中耳炎などを引き起こします。

肺炎球菌による髄膜炎は、年間約200人が発症し、約10%に後遺症が残り、約2%が死に至っています。

ヒブによる髄膜炎は、年間約500~600人が発症(細菌性髄膜炎の原因菌1位)し、約20~30%に後遺症が残り、約5%が死に至っています。

ヒブや肺炎球菌による髄膜炎等の多くが2歳未満の乳幼児に発症していますが、予防するためには予防接種が有効です。よく読み、生後2か月になったら接種を受けましょう。



### <接種に必要なもの>

※接種する際は必ず医療機関に電話予約をしましょう。

☆母子健康手帳

☆予診票

☆子ども医療費受給者証または健康保険証

### <接種方法>

接種開始時期により異なります。下記の表を参考に医師と相談しましょう。

種類	接種開始時期	回数	接種スケジュール
ヒブ	生後2か月 ~7か月未満	4回	1回目 → 27~56日 間隔 → 2回目 → 27~56日 間隔 → 3回目※1 → 7~13か月の間 → 4回目
	生後7か月 ~1歳未満	3回	1回目 → 27~56日 間隔 → 2回目※1 → 7~13か月の間 → 3回目
	1歳 ~5歳未満	1回	1回目
肺炎球菌	生後2か月 ~7か月未満	4回	1回目 → 27日以上 → 2回目※1 → 27日以上 → 3回目※2 → 60日以上 → 4回目※3
	生後7か月 ~1歳未満	3回	1回目※1 → 27日以上 → 2回目※2 → 60日以上 → 3回目※3
	1歳 ~2歳未満	2回	1回目 → 60日以上 → 2回目
	2歳 ~5歳未満	1回	1回目

※1 1歳までに接種しましょう

※2 2歳までに接種しましょう

※3 1歳を過ぎてから接種しましょう

### <接種に関する注意事項>

☆接種者の約50~70%に接種部位の赤みや腫れ、硬結等が見られ、発熱することもあります。重い副反応として、ショックやけいれん、アナフィラキシー症状(じんましん、呼吸困難、浮腫等)が現れることがあります。

☆小児用肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、**6日間以上の間隔**をあける必要があります。

☆同時接種は、早く免疫をつける、受診回数を少なくするなどのために行なわれるもので、**医師の判断と保護者の同意**によって行なうことができます。